



OLYMPUS

35UC

OLYMPUS OPTICAL CO., LTD. TOKYO, JAPAN



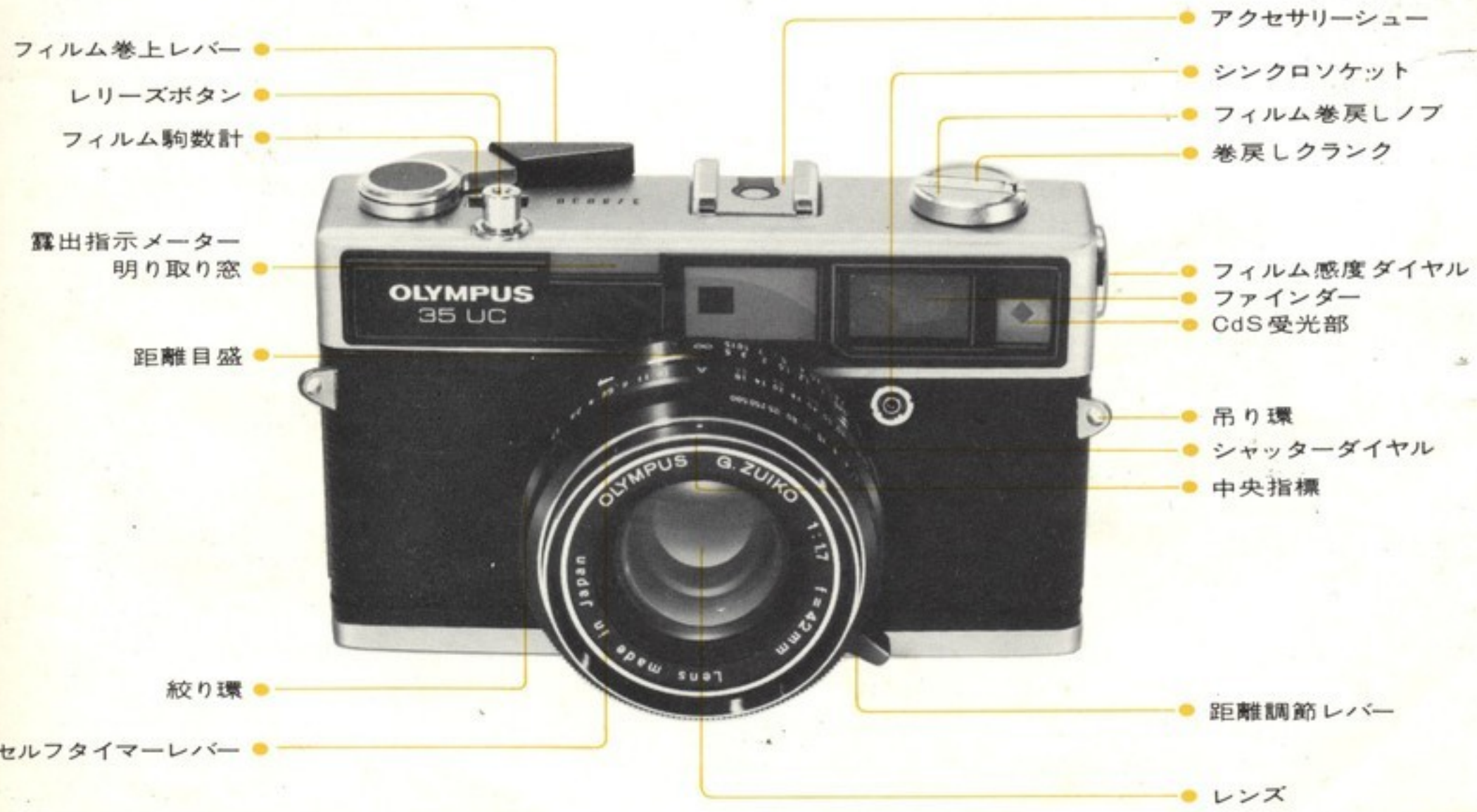
お買上げありがとうございます。

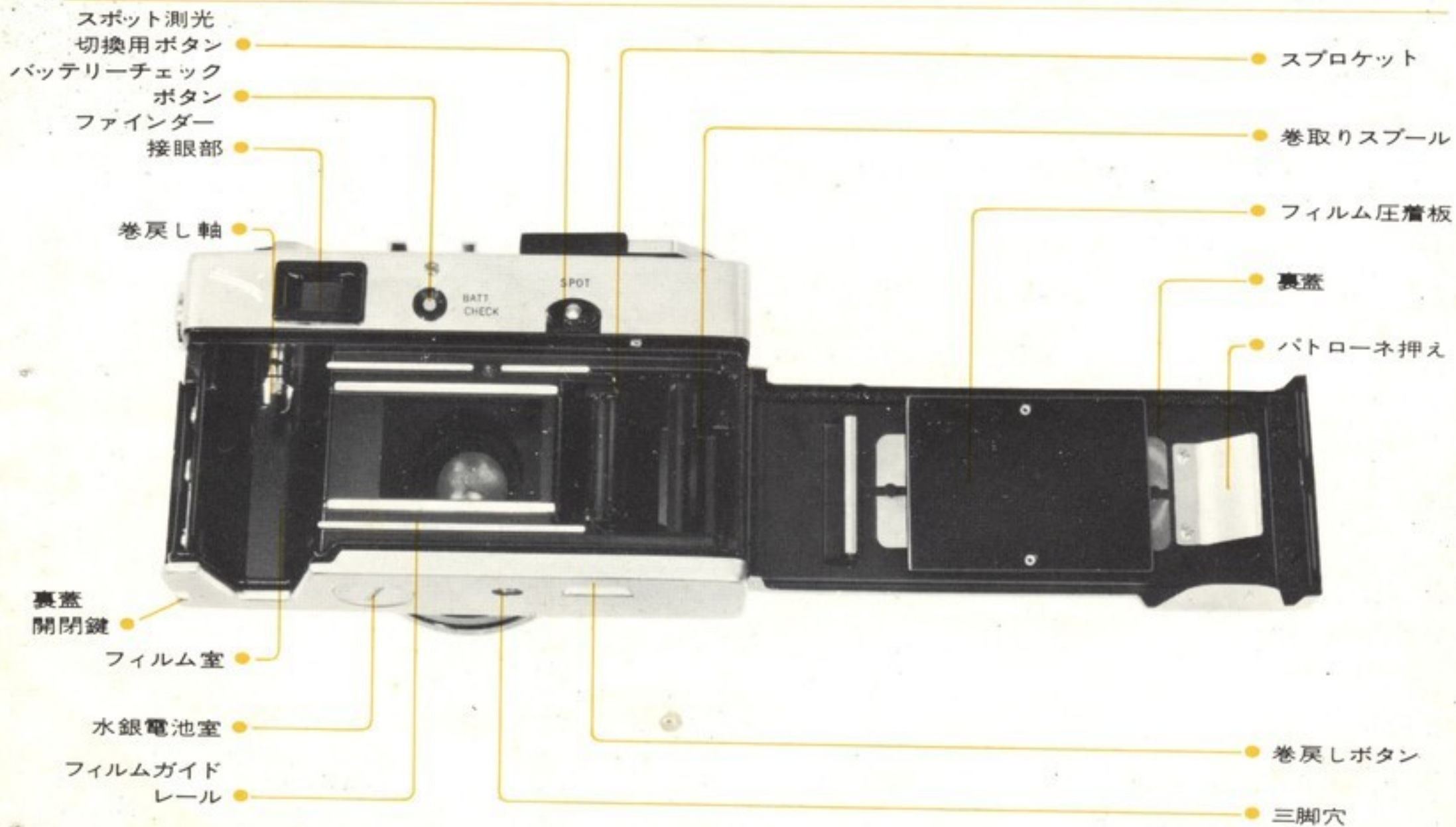
オリンパス35UCは、他に類のない特徴の切換測光方式を採用したコンパクトEEカメラです。もちろんオートのみならず、必要に応じてマニュアルでも使える設計です。F1.7大口径レンズ、フラッシュマチックシステム、セルフタイマー、バッテリーチェッカーなど充実した高性能を備えています。

傑作を写すには、まずカメラをよく知ることが先決です。撮影に入る前に、この説明書をよく読み早く自分のものにしてください。

なお説明中の写真は、普通の35UCで行ないます。

●各部の名称





●おもな性能

画面サイズ：24×36mm (35ミリサイズ)

レンズ：GズイコーF1.7 f=42mm (5群7枚)

シャッター：セイコーFLA (フラッシュマチック機構内蔵)

(オート) プログラム式EE $\frac{1}{5}$ 秒・F1.7～ $\frac{1}{250}$ 秒・F22 不適正露出時リリースロック付

(マニュアル) B. 1～ $\frac{1}{500}$ 秒 (等間隔) セルフタイマー内蔵

シンクロ接点：X接点

手動絞り目盛：F1.7～16

ガイドナンバー目盛：10～80 (m系), 32～260(ft系) フラッシュマチックシステム

ファインダー：ブライトフレームファインダー 0.7倍 パララックス補正マーク付, EV目盛指針表示

フィルム装填：ELシステム (イージー・ローディング)

フィルム巻上：レバー式ワンストローク巻上, 予備引出角30°・巻上角120°, セルフコッキング, 二重巻上防止, 二重露出防止

フィルム駒数計：順算式, 自動復元

フィルム巻戻し：クランク式, 巻戻しボタンセット式

ピント調節：二重像合致式一眼連動距離計, 直進ヘリコイド方式 距離目盛0.85m (2.8ft)～∞

露出調節：平均測光とスポット測光の切換式

(オート) CdS式完全EE EE可能範囲・EV5.5～17 (ASA 100)

(マニュアル) ファインダー内EV目盛読取り式 測光範囲・EV3～17 (ASA100)

受光部：特殊CdS使用 平均測光受光角 20°, スポット測光受光角 6°

電源：水銀電池 (JIS・H-D型) 1.3V 1個使用

バッテリーチェッカー：押しボタン式, ランプ付

フィルム感度目盛：ASA25～800, DIN 15～30

裏蓋開閉：蝶番式

アクセサリシュー：コードレス接点付

フィルター径：49mmねじ込み式

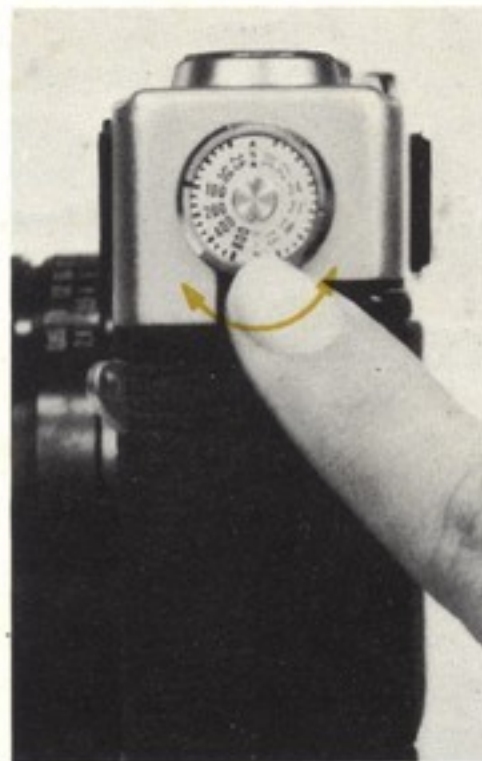
大きさ・重量：129(巾)×76(高)×61(厚)mm, 600gr.

●撮影のしかた

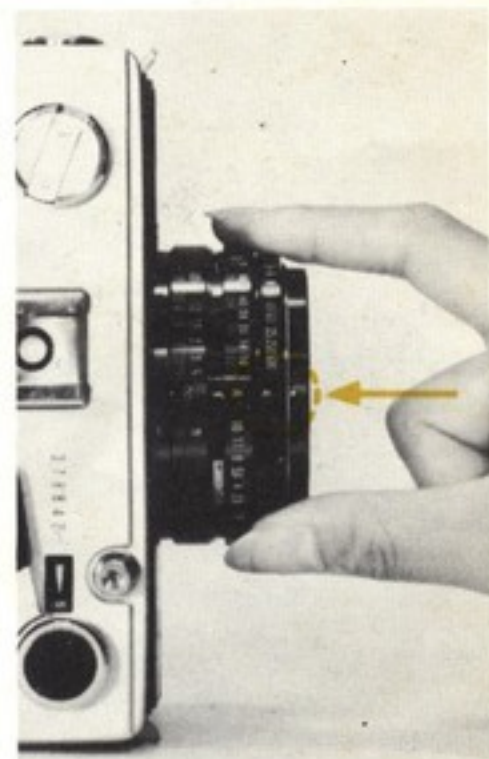
撮影はつぎのように行います。
簡単で失敗なく写せるオート撮影の手順です。



- 1** フィルムを入れます。
(11頁参照)
水銀電池は、あらかじめカメラに入れておいてください。(7頁参照)

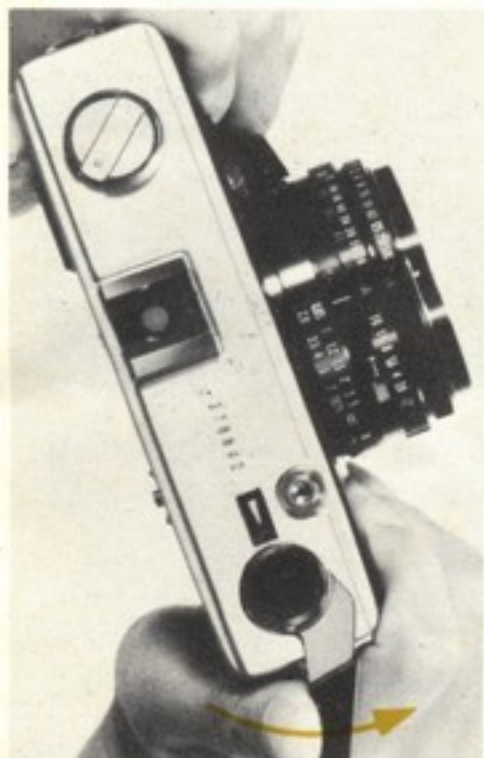


- 2** フィルム感度を合わせます。(8頁参照)



- 3** オート撮影にします。
(13頁参照)
絞り環とシャッターダイヤルの両方のAを中央指標に合わせます。





4 フィルムを巻上げます。(9頁参照)

フィルム駒数計を1にします。(12頁参照)



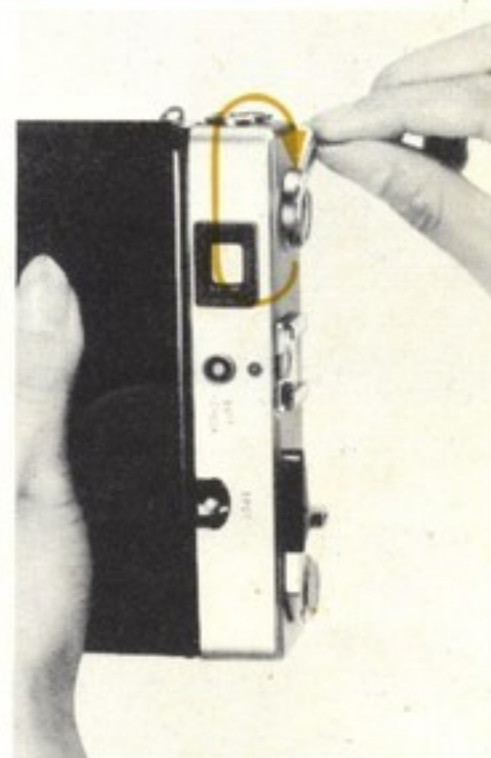
5 ファインダーをのぞいて構図を決め、ピントを合わせます。

(19頁参照)



6 カメラをしっかり構え、レリーズボタンを静かに押します。

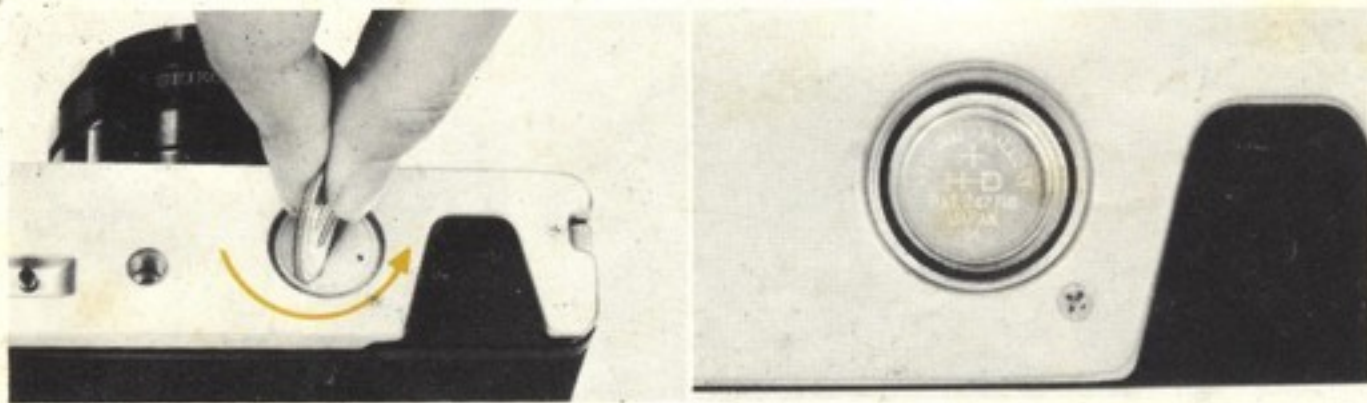
(23頁参照)



7 フィルム全部の撮影が終わったら、フィルムを巻戻します。

(24頁参照)

● 水銀電池を入れます



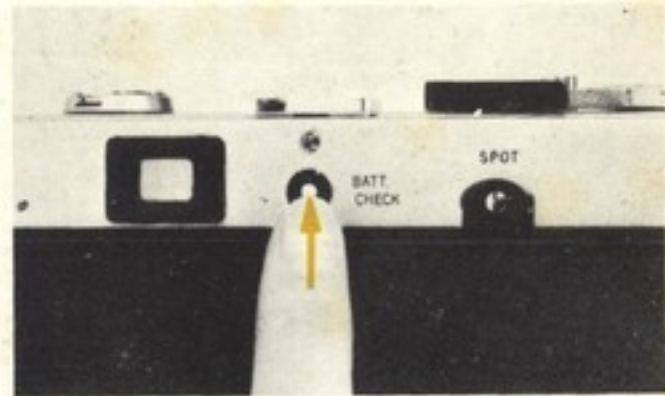
水銀電池は、カメラの露出計を働かせる重要な電源です。カメラ底部にある水銀電池室に正しく入れてください。

1. 水銀電池室の蓋は、その溝にコインなどをあてがい左（反時計方向）に回すとはずれます。
2. 次に水銀電池（JIS・H-D型、1.3V 1個）を、写真のように（+）文字の書いてある方が外側になるように入れて、蓋を元通りにしっかりねじ込んでください。

〈注意事項〉

- 電池を入れるときには電池の表面を乾燥した清潔な布でよくふいてから入れてください。
- 水銀電池は、寿命が切れると性能が一時に落ち、露出計が正しく働かなくなります。
- 一般に寿命は、普通に使っていれば1年位、特に使用回数の多い場合は半年位です。その時期がきたら新しい電池と交換するよう心掛けてください。また長期間使用しないときは、電池をカメラから取りだして保管してください。
- 使用できる水銀電池は、H-D型、またはHS-D型1.3Vです。

● バッテリーのチェックをします

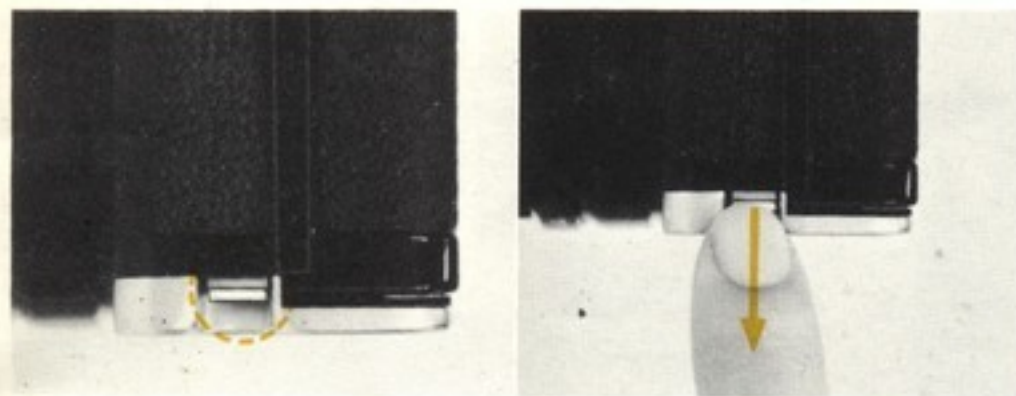


カメラ背面のBATT. CHECKボタンを押し黄橙色ランプの点燈を確認します。

ランプが点燈しないか、押しはじめだけ点燈し除々に消える場合は、新しい電池と交換してください。

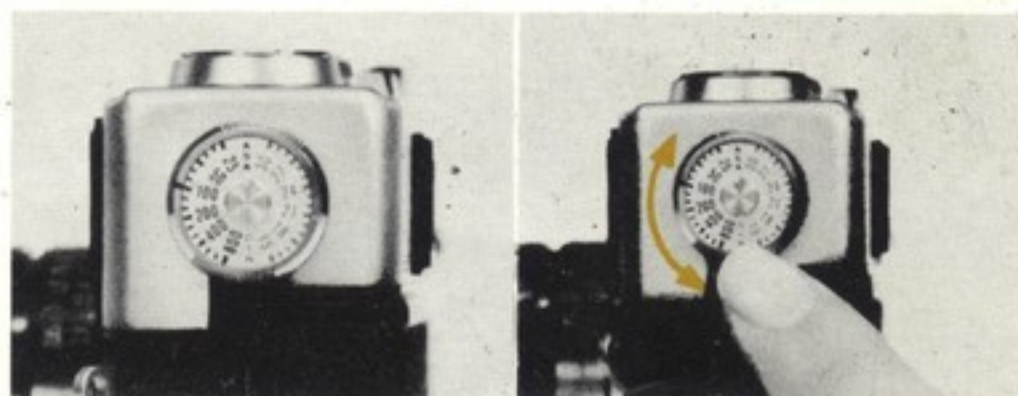
● 極低温（ -20°C ）になるとランプは点灯しない場合があります。しかし露出計は正常に作動します。

● 裏蓋をあけます



カメラの後から見て左側面下部に、裏蓋開閉鍵があります。ここに指の爪先をかけて下に引きますと、裏蓋が自動的に開きます。そのときフィルム駒数計も自動的にS（スタート）の位置に戻ります。閉じるときは、裏蓋を押してカチリと閉じて、完全にロックされたことを確認してください。

● フィルム感度ダイヤル

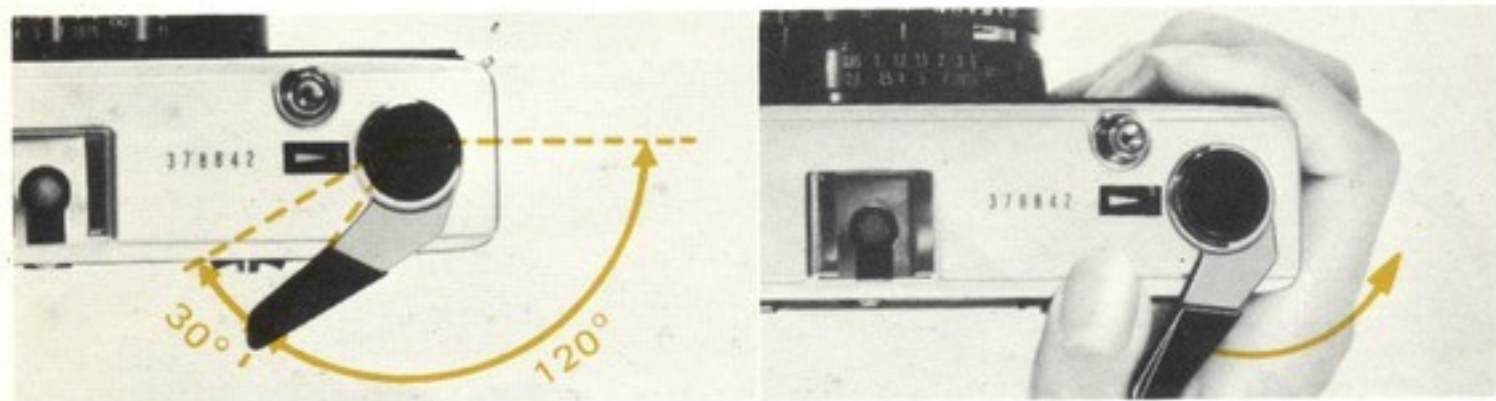


同じ左側面上部にあるのが、フィルム感度ダイヤルです。これがCdS受光部と連動して、受光部へ入る光の量を調節しています。

フィルム感度ダイヤルを指先で動かし、使用するフィルムの感度（ASA）に、標線を合わせてください。例えばSSフィルムならASA100に合わせます。※ここでARA（またはDIN）は、フィルムが光に感じる度合を示す単位の名称です。フィルムに明示されているこの数値は、絶対間違わずにセットしてください。適正露出を得るための第一条件です。

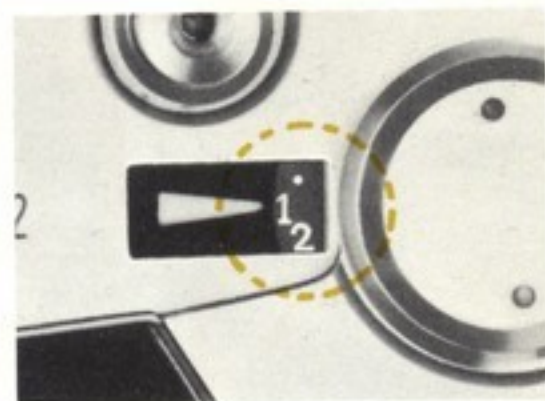
ASA 目盛：25 (32) (40) 50 (64) (80) 100 (125) (160)
200 (250) (320) 400 (500) (640) 800
() 内は、カメラでは一のみの表示です。

● 巻き上げレバーを操作します



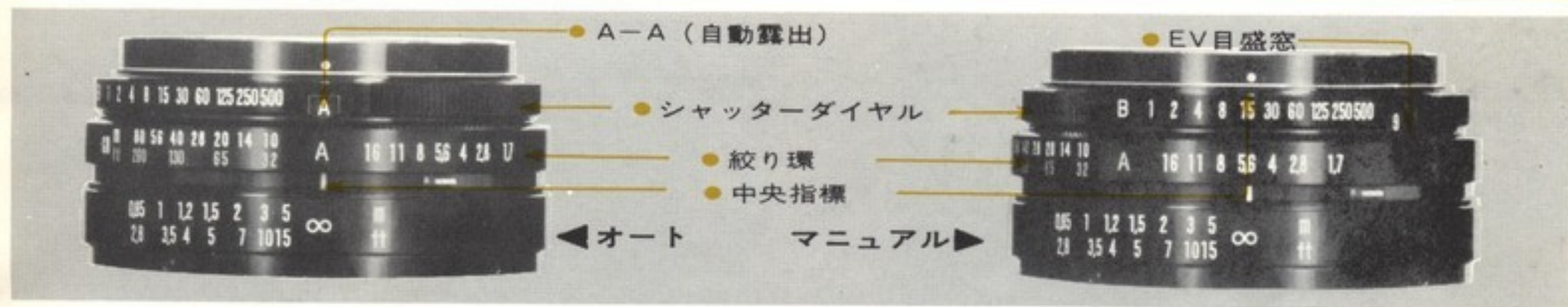
1. フィルム巻上レバーを軽く引出します。(予備引出角 30°) 撮影するときには、巻上レバーをこの状態まで引出しておくこと、次の巻上がやりやすくなります。
2. ここから巻上レバーが止まるまで回すと、フィルムが1駒分巻上げられ、シャッターがセットされます。(巻上角 120°)
なお、巻上レバーは必ず止まるまで巻上げないと、元の位置に戻りません。巻上途中から無理に戻さないでください。
3. レリーズボタンを静かに押します。シャッターが切れて再び巻上ができます。

● フィルム駒数計



フィルム駒数計には、S(スタート)から36までの数字が、S・・1 2・4・6と以下偶数で刻まれています。フィルムを巻上げると、1駒分ずつ動き、オレンジ色のマーク(▶)の先に撮影枚数が示されます。撮影が終って裏蓋をあけると、フィルム駒数計は自動的にS(スタート)に戻ります。

●シャッターダイヤルと絞り環の操作のしかた



オリンパス35UCは、広範囲なオート（自動露出）撮影ができるのみならず、必要に応じてオートをはずしマニュアル（手動露出）にして、シャッタースピードや絞りを自由に選択できるのが特色です。

●レンズの鏡胴をごらんください。

先端の黒い回転環がシャッターダイヤルです。そこにはB、1、2、4…500と数字が刻まれています。Bはバルブ露出のことで、レリーズボタンを押しているあいだシャッターの羽根が開いており、放すと閉じます。長時間露出のときに使います。1は1秒、2は $\frac{1}{2}$ 秒、…500は $\frac{1}{500}$ 秒を表わしています。各目盛とも必ず中央赤指標の位置でクリックストップさせて使用してください。

※シャッタースピードは、数字と数字の間スピードは使用できません。また30（赤字）については、一般撮影にも使いますが、フラッシュ撮影の項（25頁）を参照してください。

●次の黒い回転環が絞り環です。

そこには、1.7、2.8…16と白い数字が刻まれています。この数値を中央指標に合わせて使います。

※絞りは、その数値が大きくなればなるほど、小さくなります。また絞りは、シャッタースピードと違い中間の目盛が使えます。なお左側のGN（ガイドナンバー）については、フラッシュ撮影の項（25頁）を参照してください。

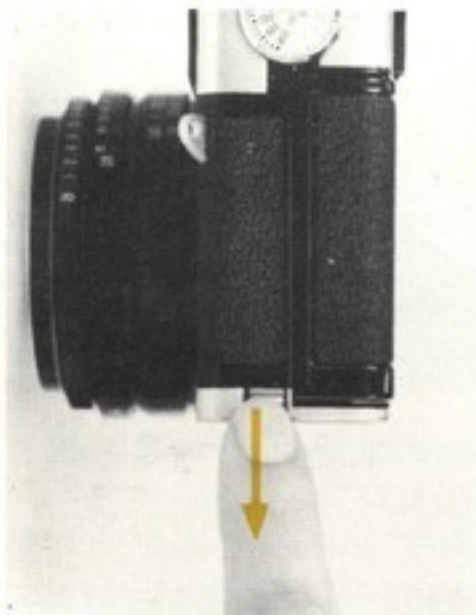
○オート（自動露出）撮影をする場合は、シャッターダイヤルと絞り環を回して、両方のA（赤字）が中央の位置で合致するようにしてください。（13頁参照）

○マニュアル（手動露出）撮影をする場合は、両方のAをはずして、ファインダー内でメーター指針が指すEV目盛を読みとり、シャッターダイヤルの小窓にその数値ができるように調節してください。（17頁参照）

●フィルムを入れましょう



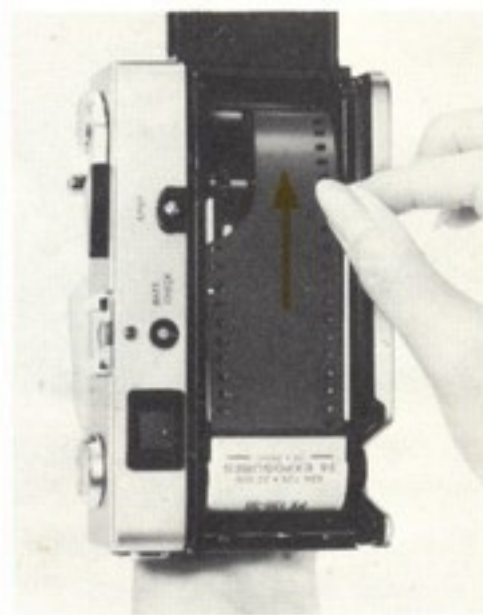
1 まずA（オート）をはずしてください。絞り環を回して、Aを中央指標からはずします。※オートをはずす理由は、周囲が暗いとレリーズボタンがロックされて、フィルムを入れる操作がスムーズに行われない場合があるからです。



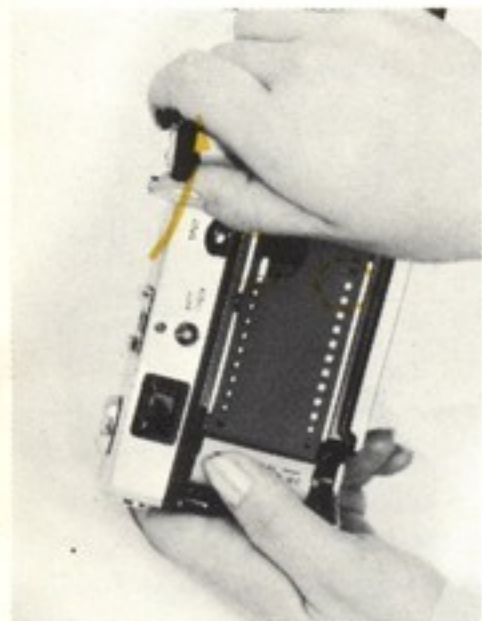
2 裏蓋をあけます。カメラの横にある裏蓋開閉鍵を下に引くと、裏蓋が自動的にあきます。（8頁参照）



3 フィルムを入れます。フィルムパトローネをフィルム室に納めます。パトローネがフィルム室にすっぽり納らないときは、巻戻しノブを左右に少し回しながらパトローネを押込むと、楽にカチリと入ります。

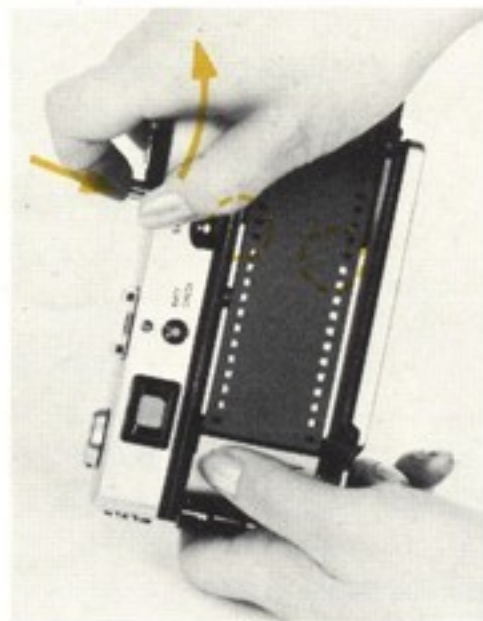


4 フィルムの先を差込みます。左手でパトローネを軽く押さえながら、右手でフィルムの先を持って少し引出し、フィルムのたるみを防ぎながら、その先端を巻取りスプールの溝の回転方向に差込みます。



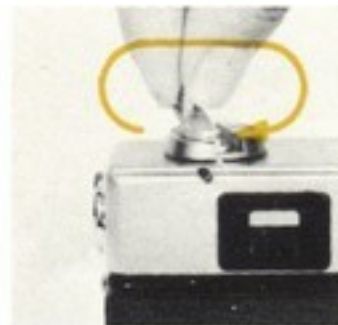
5 フィルムを巻上げます。

パトローネは軽く押さえたまま、右手で巻上レバーを止まるまで回します。



6 次に“空写し”をします。

フィルムのパーフォレーションが両側ともスプロケットの歯にしっかりかかるようにします。



7 裏蓋を閉じて、フィルムのたるみをとります。

パーフォレーションが両側ともしっかりかかっていることを確認してから、裏蓋を押してカチリと閉じてください。

ここで念のため巻戻しクランクを起し、ノブが重く感じるまで軽く矢印の方向に回して、フィルムのたるみをとります。

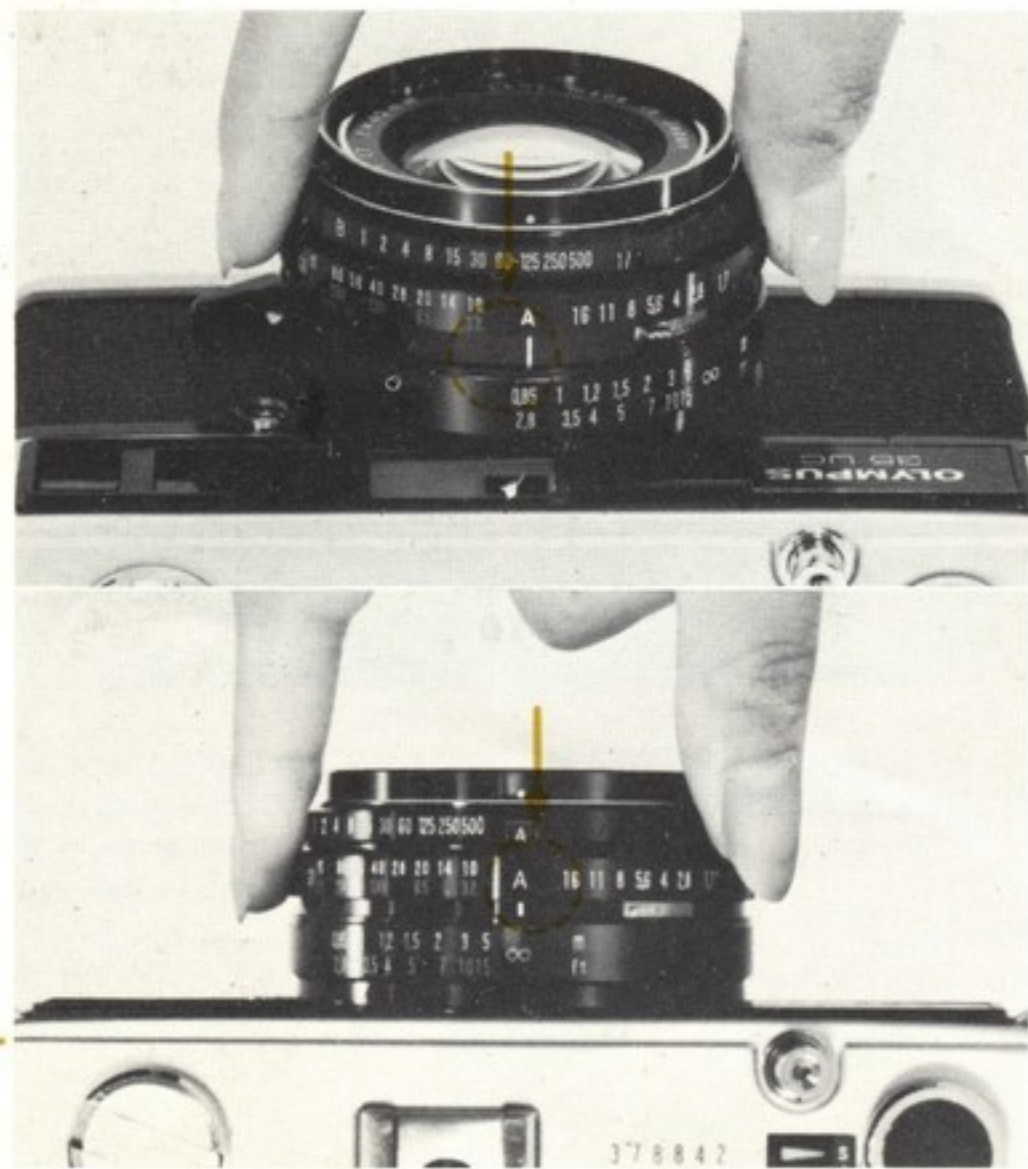


8 フィルム駒数計を1にします。

ここでフィルム駒数計に1がでるまで空写し（2回位）をしてください。ここから撮影。この空撮しの途中で巻戻しノブが巻上につれて回っていけば、フィルムは正しく送られていることになります。

※オート撮影する場合は、絞り環を回してAを中央指標に戻しておきます。

● 露出の決めかた



● オート（自動露出）撮影の場合

〈平均測光〉

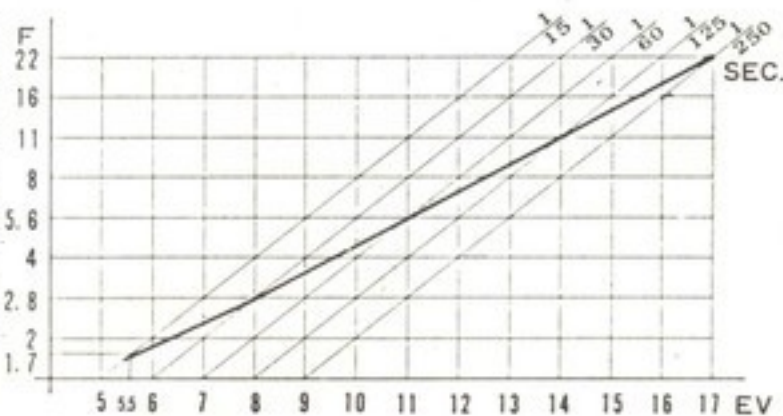
面倒な露出操作は苦手とおっしゃる方や、初めてカメラを手にする方には、オート撮影が便利です。まず1)絞り環を回してAを中央指標に合わせ、次に2)シャッターダイヤルを回して小窓を中央にもってきてAができるようにします。AとAが合致してオートになります。

優れたプログラム式EEシャッターを採用してありますので、被写体の明るさに応じて、理想的なシャッタースピードと絞りの組み合わせが自動的に選ばれます。しかも高感度CdSを受光部に使っているため、相当暗い場合もEV5.5 (F1.7・ $\frac{1}{8}$ 秒)までオートで撮影できます。

適正露出外で暗すぎれば、リリースボタンが自動的にロックされ、シャッターが切れません。そのときは、オートをはずしてマニュアルにするかフラッシュ撮影をしてください。

プログラムEE
作動範囲図

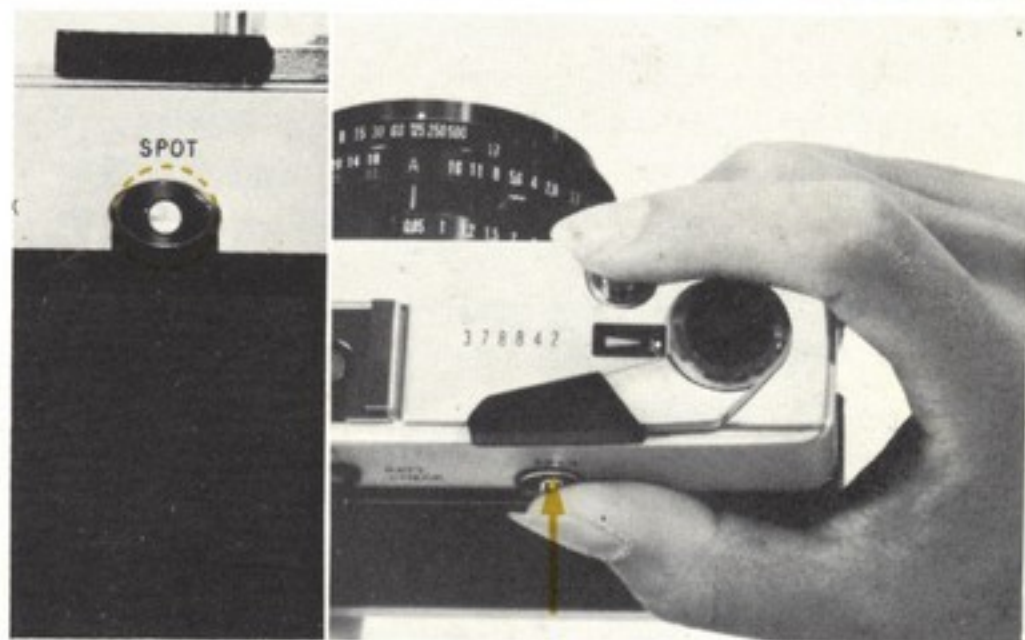
オート撮影の場合、シャッタースピードと絞りの組合せは被写体の明るさに応じて太い線にそって $\frac{1}{8}$ 秒・F1.7から $\frac{1}{250}$ 秒・F22まで連続的に変化してゆきます。



● スポット測光のしかた

〈スポット測光〉

また逆光撮影の場合（光源が被写体の後側にあるときや窓際の人物など）や、被写体と周囲の明暗がはっきり違い過ぎる場合（ライトが当たっている舞台など）の特殊ケースでも、スポット測光すればそのままオート撮影ができます。EEカメラでスポット測光ができるのは、このオリンパス35UCだけです。ファインダーをのぞくと、中央に二重像合致部（16頁参照）がみえます。これがスポット測光の範囲です。まず1)スポット測光で撮影しようとする被写体をこの中におさめるようにします。次に2)カメラ背面のスポット測光切換用ボタンを押しながら、シャッターを切りますと上記のような特殊ケースでも良い結果が得られます。



▼平均測光

▼スポット測光



● オート撮影の場合の注意

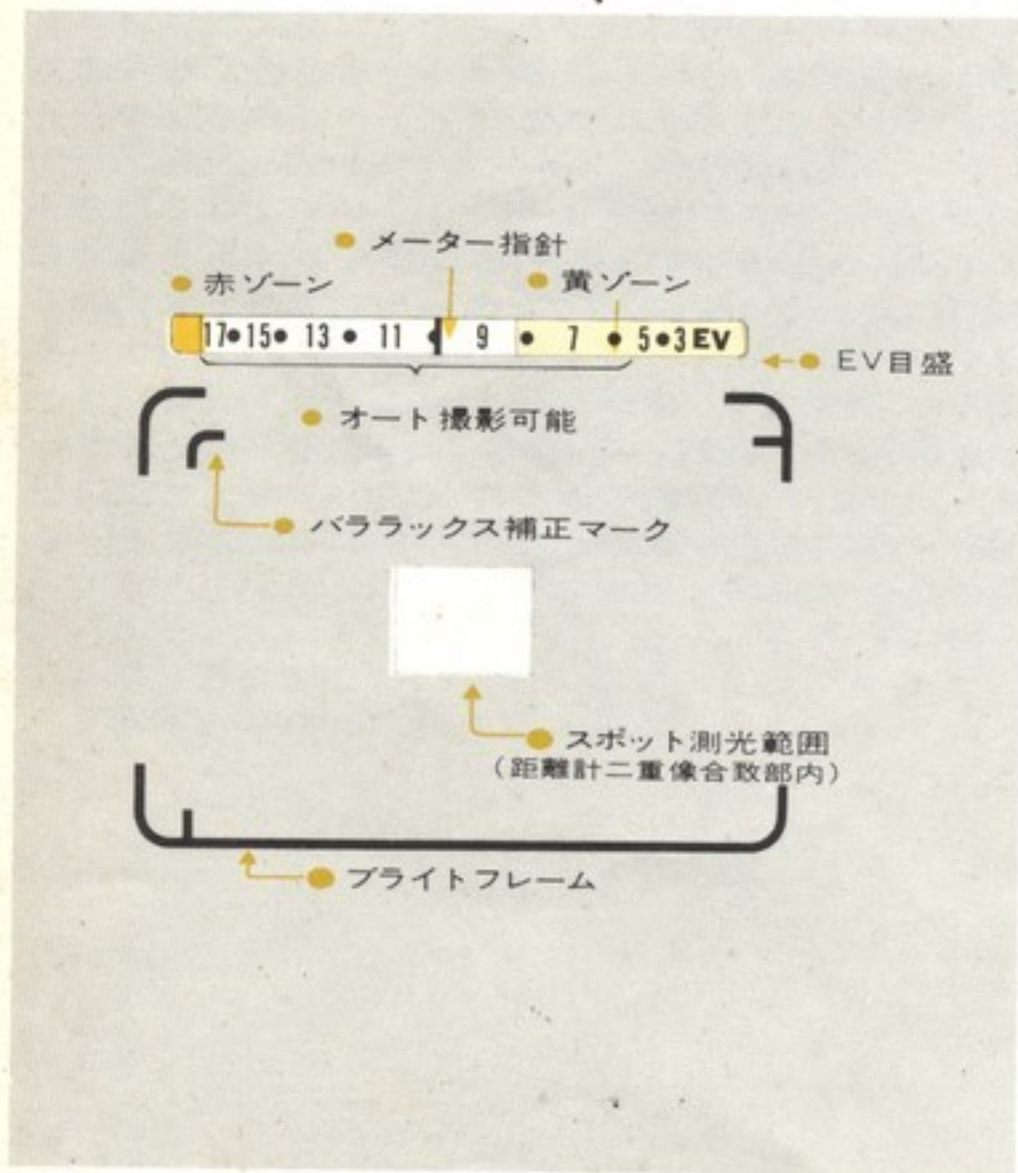
1. 必ずシャッターダイヤルと絞り環の両方のAが中央指標に合っていることを確認してください。どちらか片方はずれていても、オートにはなりません。
2. ファインダー内露出指示メーター（16頁参照）の黄ゾーンに指針が入った場合は、シャッタースピードがスロー（ $\frac{1}{15}$ ～ $\frac{1}{30}$ 秒）になりますので、カメラブレしないように注意してシャッターを押してください。また赤ゾーンに入った場合は、シャッターは切れますが、明るすぎて露出オーバーになりますのでご注意ください。
3. セルフタイマーはオートでは使用できません。必ずマニュアルで使ってください。

● オート撮影可能範囲：

ファインダーをのぞくと、ブライトフレームの上に横に細長い露出指示メーターがみえます。この内赤ゾーンと黄ゾーンの一部を除いたEV 5.5からEV 17までがオート撮影が可能な範囲です。メーター指針がこの範囲内にあるときは、自動露出で撮影ができます。

● 減速表示範囲：

オート撮影の場合、メーター指針が黄ゾーン（EV 8以下）内に入ったときは、シャッタースピードが $\frac{1}{15}$ ～ $\frac{1}{30}$ 秒になりますので、カメラブレには十分気をつけてください。また当然動きの速い被写体は避けるようにします。



●露出オーバー警告範囲：

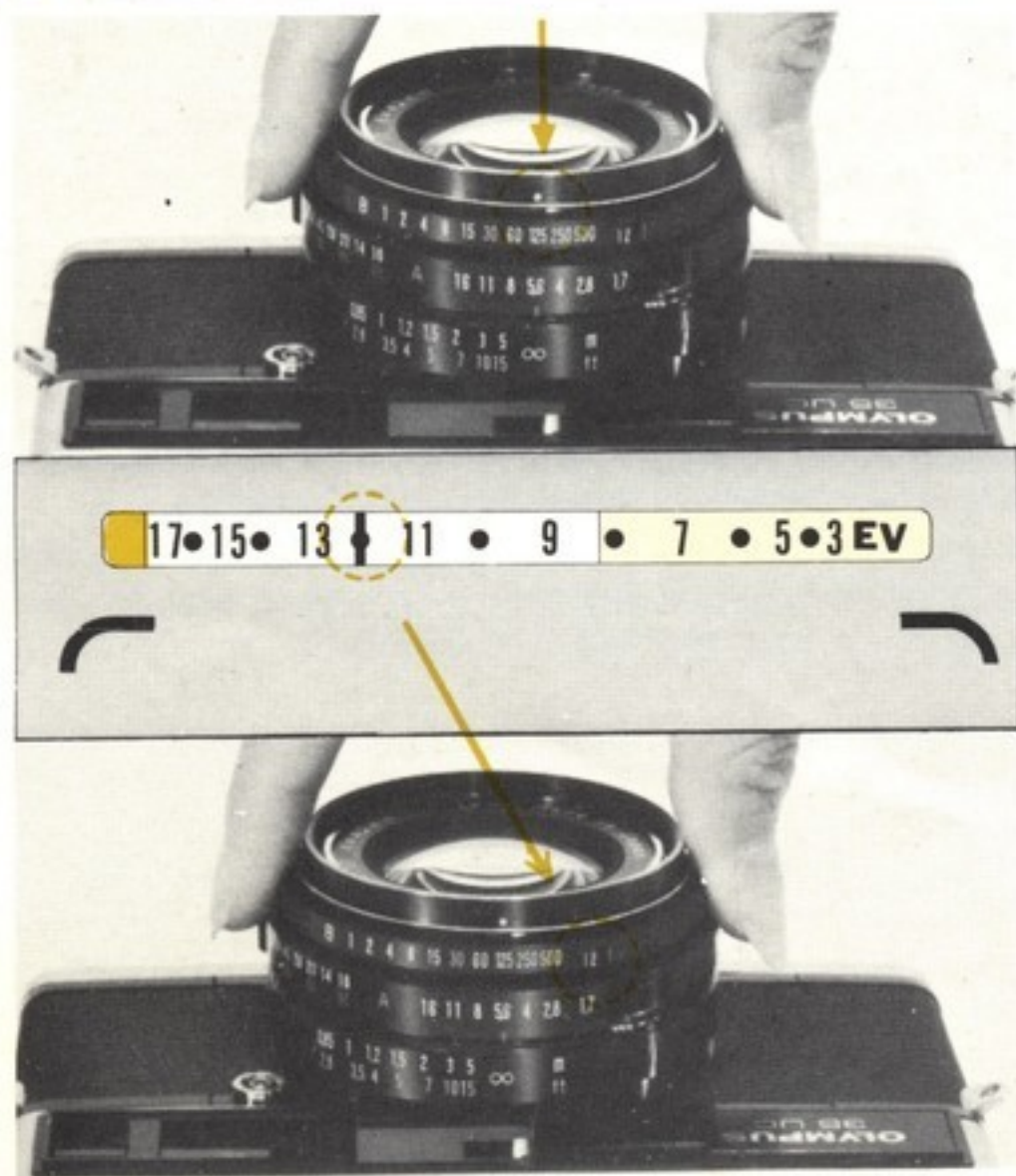
メーター指針がEV 17以上の赤ゾーンに入ったときは、明るすぎて露出がオーバーになります。

NDフィルターなどを使って撮影してください。

●スポット測光範囲

ファインダー中央の明るい長方形の部分〈ピントを合わせるときここで二重像を合致させる〉が、スポット測光できる範囲です。スポット測光したい被写体をこの内側におさめ、カメラ背面のスポット測光切替用ボタンを押したまま、リリースボタンを押下げますと、スポット測光のオート撮影ができます。マニュアルのときは、スポット測光切替用ボタンを押して、EV目盛を読みとり、その数値をシャッターダイヤルの小窓にだしてください。

●マニュアル(手動露出)撮影の場合



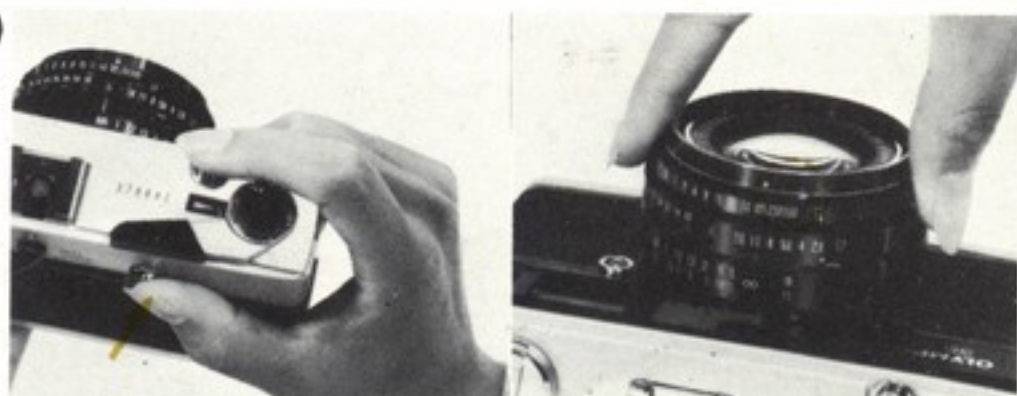
自分でシャッタースピードや絞りを選んで露出を決めたい場合や、セルフタイマーを使う場合には、オートをはずしてマニュアルにします。このときファインダー内の露出指示メーターを利用すると便利です。マニュアル撮影の場合は、一般にシャッタースピードを優先させます。まず1)被写体の条件によりあらかじめ適切なシャッタースピードを選びます。例えば室内や暗いところでは $\frac{1}{5}$ か $\frac{1}{30}$ 秒、屋外や明るいところならば $\frac{1}{125}$ か $\frac{1}{250}$ 秒にセットします。次に2)カメラを被写体に向け、メーター指針が指すEV目盛を読みとります。3)絞り環を回して、そのEV数値がシャッターダイヤルの小窓にできるようにします。これで適正露出が得られるわけです。

なおスポット測光で撮影したい場合は、4)カメラ背面のスポット測光切替用ボタンを押したままメーター指針が指すEV目盛を読取り、同じようにして露出を決めてください。

※露出を変えないで、シャッタースピードと絞りの組合せを変えたい場合：被写体の条件により、もっとシャッタースピードを速くしたり、絞り込んで撮影したい場合があります。そのときは、シャッターダイヤルと絞り環を同時につまんで、EV数値が小窓にでている状態のまま、右か左に回わしてシャッタースピードなり絞りなりを決めてください。

※実際にマニュアル露出は、写真表現上故意に不適正露出にしたり、動体を高速を使って止めたり、逆に低速でブラして動きを表わしたり、風景のとき絞って深い奥行をだしたりするなどの高度なテクニックを駆使する場合に利用価値があります。

4)



5)



● 構図を決めてピントを合わせます



● 構図の決めかた

ファインダーをのぞいてみると、その周囲に明るい光の枠がみえます。これをブライトフレームといい、この内側に入るものが実際に写ります。撮影のときは、このブライトフレーム内いっぱいに入るようにして構図を決めてください。

なお1m以内の近距離撮影のときは、ブライトフレームの内側にあるパララックス（視差）補正マークがかこむ範囲に、写したいものが入るようにします。



● ピントの合わせかた

ファインダー中央の明るい長方形の部分（距離計二重像合致部）でピントを合わせます。ファインダーをのぞきながら、写したい被写体を中央にもってきて、距離調節レバーを上下に動かすと、この部分の二重像がピッタリ合致してハッキリみえるようになります。このときがピントが合ったときです。

※距離目盛はm（メートル・白字）とft（フィート・オレンジ色）の両方で刻まれ、中央指標に合ったところが、被写体までの距離を表わしています。



● 被写界深度について

ある距離にピントを合わせたとき、その距離にあるものが一番ハッキリ写るのは当然です。しかしレンズの一般的性質として、その前後にもハッキリ写る範囲があります。これを被写界深度とよび、この範囲が広いことを深度が深いといいます。深度は、絞りを絞るほど深くなります。

マニュアル撮影で、例えば距離3m、絞り16に合わせたとします。右の被写界深度表をごらんください。1.48mから無限遠までピントが合うことがわかります。この点を利用すれば、スナップ撮影でいちいちピントを合わせ直す必要がなく大変便利です。

またオート撮影の場合の絞り数値は、ファインダー内露出指示メーターが指すE V目盛と13頁のプログラムE E作動範囲図から、読みとることができます。※マニュアル撮影では絞り16までですが、オート撮影では22 ($\frac{1}{250}$ 秒)まで絞られます。



● G ズイコー F1.7 f=42mm 被写界深度表

絞り 距離m	ピントを合わせた距離 (m)							
	∞	5	3	2	1.5	1.2	1	0.85
F 1.7	23.69 ∞	4.19 6.21	2.69 3.39	1.86 2.16	1.42 1.59	1.15 1.25	0.97 1.04	0.83 0.88
F 2.8	15.22 ∞	3.82 7.25	2.54 3.67	1.79 2.27	1.38 1.64	1.12 1.29	0.95 1.06	0.81 0.89
F 4	10.79 ∞	33.47 8.99	2.38 4.06	1.71 2.41	1.33 1.71	1.09 1.33	0.93 1.09	0.80 0.91
F 5.6	7.77 ∞	3.09 13.23	2.20 4.74	1.62 2.63	1.28 1.82	1.06 1.39	0.90 1.13	0.78 0.94
F 8	5.48 ∞	2.66 45.83	1.98 6.32	1.50 3.04	1.20 2.00	1.01 1.49	0.86 1.19	0.75 0.98
F 11	4.01 ∞	2.27 ∞	1.76 10.88	1.37 3.79	1.12 2.29	0.95 1.64	0.82 1.28	0.72 1.04
F 16	2.78 ∞	1.82 ∞	1.48 ∞	1.20 6.45	1.01 3.04	0.87 1.98	0.76 1.47	0.68 1.16
F (22)	22.04 ∞	1.48 ∞	1.25 ∞	1.04 43.89	0.90 4.99	0.79 2.65	0.70 1.80	0.63 1.34

● カメラはスマートにしっかり構えます



美しい写真を撮るには、カメラをしっかり構えなければなりません。ピントの悪い写真の多くは、カメラブレが原因です。カメラに慣れるまで、何回も練習してみてください。

リリースボタンは、指を立てずに指の腹で静かに押下げます。そのとき指やケースなどが、レンズや、CdS受光部にかからないように注意してください。構えかたは、構図によってタテ位置でも、ヨコ位置でも自由です。

- ヨコ位置にカメラを構えるときは、両腕をからだからはなさないようにします。特に左ひじをからだにしっかりつけるとカメラが安定します。
- タテ位置にカメラを構えるときは、右ひじをからだにしっかりつけて、左手でカメラをひたいに押しつけて動かないように保持します。



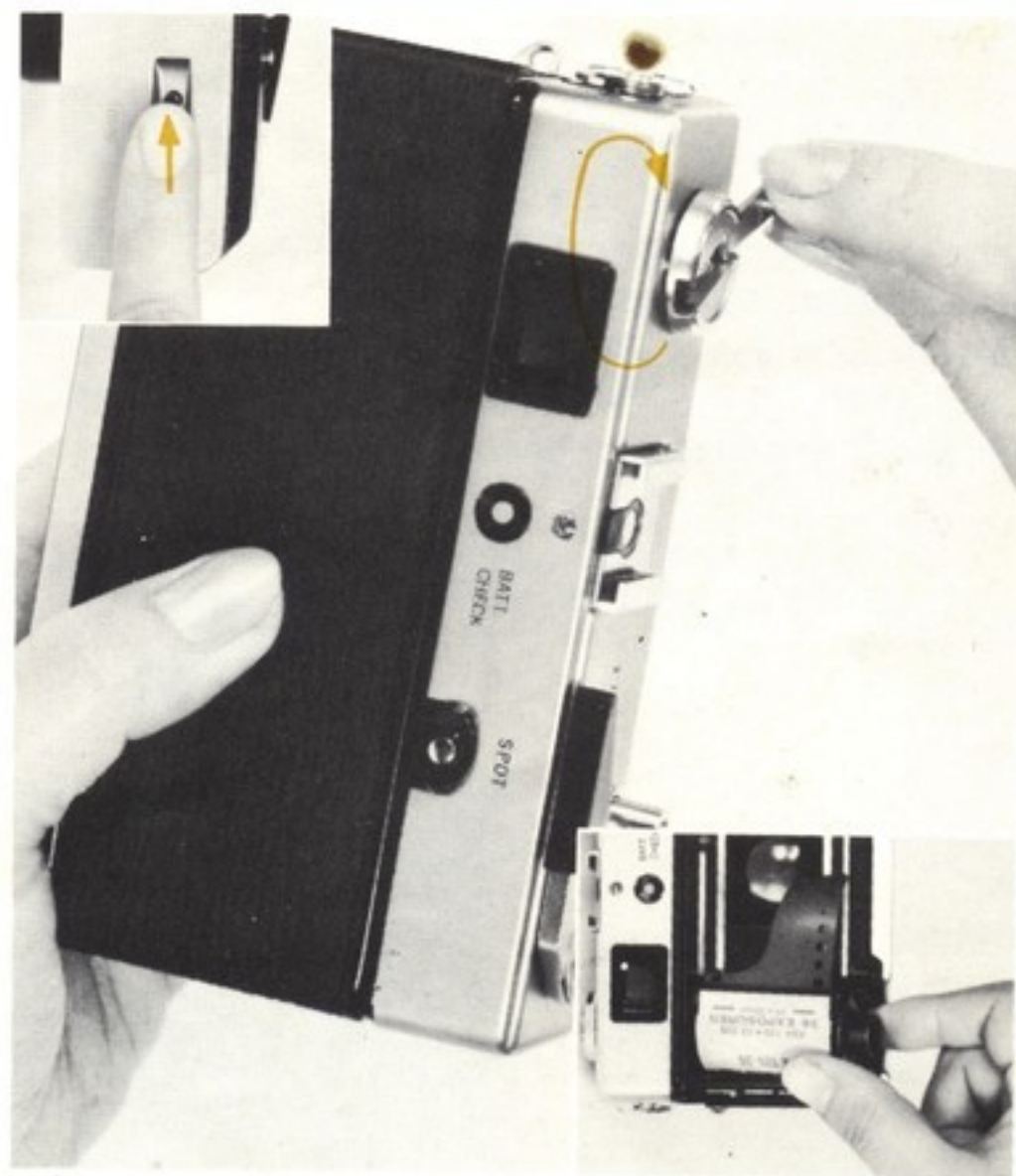
● フィルムを巻戻します

撮影が終わったらフィルムを巻戻します。

撮影し終わったかどうかは、フィルム駒数計が12（12枚どりフィルム）か20（20枚どり）または36（36枚どり）になったことでわかります。

1. フィルムの巻戻しは、まずカメラ底部にある巻戻しボタンを押込みます。一度押込めば、飛びだしません。
2. 次に巻戻しクランクを起し、クランクを矢印の方向に回してください。フィルムを巻戻している間は、クランクが重く感じますが、フィルムが巻戻されてスプールからフィルムの先端がはずれると、急に軽くなります。
3. 巻戻しが終わったら、直射日光の当たらないところで裏蓋をあけて、フィルムを取出してください。ひっこんだ巻戻しボタンは、1回の巻上操作をすれば元の位置に戻ります。

※なおフィルムが終りになって、巻上レバーが途中で動かなくなることがあります。そのときはフィルムが終っているので無理に巻上げず、巻戻しボタンを押込んでフィルムを巻上げてから、巻戻すようにしてください。



● 特殊な撮影の場合

● フラッシュの使いかた

室内や暗いところでの撮影や日中でも補助光がいる撮影には、フラッシュバルブやストロボを使ってフラッシュ撮影をしてください。

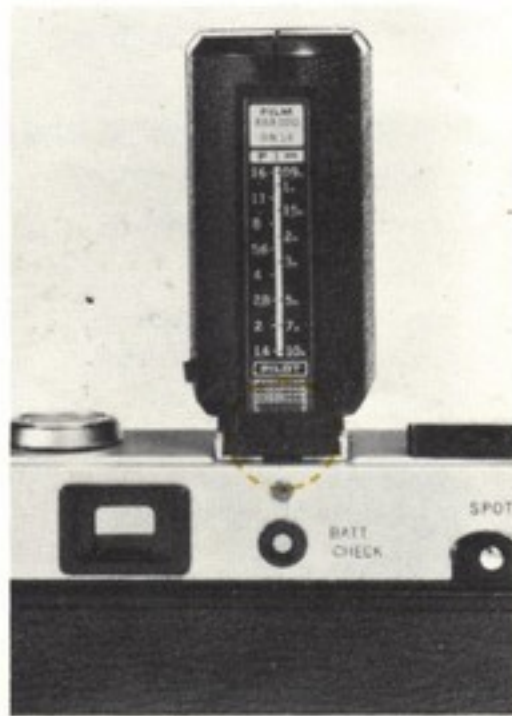
オリンパス35UCのアクセサリシューはコードレス接点付ですので、超小型オリンパスPS200やペンフラッシュCLがコードなしで使え大変便利です。またフラッシュマチックシステムを採用してあり、面倒な露出計算をせずに簡単にフラッシュ撮影が楽しめます。



1 ストロボやフラッシュガンを取付けます。

- a) オリンパスPS200は、カメラ上部のアクセサリシューに差込むだけで電氣的に接続します。
- b) 一般のフラッシュガンやストロボを使用する場合には、その取付足をアクセサリシューに差込み、接続プラグをカメラのシンクロソケットに取付けます。

a)



b)



2 露出を決めます。

フラッシュ撮影におけるシャッタースピードは、フラッシュバルブを使用する場合には1/30秒(赤字)を使ってください。ストロボの場合には、1/500秒までの全スピードが同調して使えます。

a) フラッシュマチックを使用する場合

使用するフラッシュバルブやストロボ、およびフィルムの種類やシャッタースピードなどにより決定したガイドナンバーを、絞り環を回して中央振標に合わせます。あとは被写体にピントを合わせれば、その撮影距離に応じて露出計算はカメラが自動的にやってくれ、適正な絞りが決まります。

オリンパスPS200を使用する場合、ガイドナンバーをASA100



GM(m)	距離目盛(m)							
	5	3	2	1.5	1.2	1	0.85	
10	32							
14	(45)	フラッシュマチック 連動範囲						
20	65							
28	(90)							
40	130							
56	(180)							
80	260						非連動範囲	

a)

のときは14(m系)に合わせてください。同様にペンフラッシュCLを使用してAG-3Nの場合は、ガイドナンバー20に合わせてください。

b) フラッシュマチックを使用しない場合

まず被写体にピントを合わせて、そのときの距離を読みとります。その数値で、使用するフラッシュバルブやストロボのガイドナンバー(フィルム感度やシャッタースピードによっても違う)を割って、その数値に近い絞りを選んでカメラにセットしてください。例えば、フラッシュバルブのガイドナンバー40(ASA100)で、距離5mなら $40 \div 5 = 8$ ですから、絞りを8に合わせれば適正露出になります。ガイドナンバーを被写体までの距離で割った値が、1.7よりも小さいかまたは16を超える場合は、被写体が遠すぎるか近すぎるかで不適正露出になります。



● セルフタイマーの使いかた

撮影の楽しさを倍加する便利なセルフタイマーが内蔵されています。他人の手を借りず自分自身の撮影も、みんな揃っての記念撮影もOKです。

使用するときの注意は、セルフタイマーがオート（自動露出）で使えませんので、必ずマニュアル（手動露出）にしてください。またフィルムを巻上げてからでないで、セルフタイマーはセットできません。シャッタースピードはB（バルブ）以外のものに合わせて使います。

1. まずフィルムを巻上げて、適正露出をセットします。
2. 次にセルフタイマーレバーを、写真の矢印の方向に止まるまで動かすと、セットされた状態になります。
3. レリーズボタンを押すと、セルフタイマーが作動し、約9秒後にシャッターが切れます。



● カメラは大切にしましょう

- カメラは、ていねいに取扱ってください。例えば、レリーズボタンをポンポンたたいたりするのは、カメラをいためる結果となります。
- カメラを長期間ご使用にならないときは、水銀電池を取りだして保管してください。次に使用するときには水銀電池の表面を乾燥した清潔な布でよく拭いた上、正しく水銀電池室に入れます。
- カメラには、ホコリや湿気が大敵です。保管する場合は、できるだけ乾燥した空気の流通のよいところにしまってください。
- レンズなどの光学部分には、指をふれないでください。もし指をふれてしまったら、すぐ清潔なノリのついていない木綿布で拭いてください。そのままにしておくと、指紋などがとれなくなってしまいます。
- 海岸で撮影したあとは、カメラの表面を柔らかい布で良く拭きとり、塩分などがついたままにしないでください。
- ラジオ、テレビ、その他強い磁石の近くなどには、長く置かないようにしてください。
- カメラの具合が悪い場合は、すぐ最寄りのオリンパスサービスステーションにお持ちください。

● 付属品をご利用ください

● フード(35UC専用)

…………… ¥350

逆光撮影などの場合、有害な光線が入るのを防ぎます。逆さにすればレンズの鏡胴にかぶせられ、そのままケースに納まります。



● フィルター

49mmねじ込み式を使います。¥2など露出倍數がかかるフィルターを使う場合は、フィルム感度目盛をおとして補正してください。

UV, Y2, 1A, 81C, 82C

各 ¥1,300



● ペンフラッシュCL

…………… ¥1,000

AG-3Nのバルブを使うコード不要の世界最小のフラッシュガンです。



● オリンバスPS200<本体¥4,400ケース¥200><電池別> ¥4,600

新開発された超小型軽量ストロボです。縦型設計でコンパクトカメラに取りつけたときのバランスは最高。アクセサリースューに差込むだけで、電氣的に接続するダイレクトコンタクトシュー専用です。アルカリ乾電池2本で200回以上発光。G.N.(ガイドナンバー)は、ASA100で14(m)です。

海外にお出かけの方に

万一旅行の途中で、カメラに事故が発生した場合は、各国にサービスステーションがありますからお尋ねください。リストは、東京サービス・ステーションにご請求いただければ、お送りいたします。

オリンパス光学工業株式会社

国内オリンパス・サービス・ステーション所在地 ※日曜・祭日および第1・第3土曜日は休みます。

東京	151. 東京都渋谷区幡ヶ谷2の43の2	オリンパス光学工業(株)	電話(377) 2111
	101. 東京都千代田区神田小川町3の7	オリンパス商事(株) 東京本店内	電話(294) 4411
名古屋	460. 名古屋市中区錦3の23の31 栄町ビル	オリンパス商事(株) 名古屋支店内	電話(961) 0531
大阪	542. 大阪市南区塩町通り3の45	オリンパス商事(株) 大阪支店内	電話(252) 6981
九州	810. 福岡市天神1の14の1 日本生命ビル	オリンパス商事(株) 福岡支店内	電話(761) 4466
北海道	060. 札幌市北3条西4丁目 日本生命ビル	オリンパス商事(株) 札幌営業所内	電話(23) 2320
広島	730. 広島市中町7の32 日本生命ビル	オリンパス商事(株) 広島営業所内	電話(48) 0291
仙台	980. 仙台市中央1の2の3 駅前第1ビル	オリンパス商事(株) 仙台営業所内	電話(25) 6821
北陸	920. 金沢市香林坊2の4の30 五輪ビル	オリンパス商事(株) 金沢営業所内	電話(62) 8257
横浜	220. 横浜市西区北幸1の7の2 横浜駅西口ビル	オリンパス商事(株) 横浜営業所内	電話(311) 2041
新潟	950. 新潟市東大通り1の23 マルタケビル	オリンパス商事(株) 新潟営業所内	電話(45) 7337
静岡	420. 静岡市追手町1の6 日本生命ビル	オリンパス商事(株) 静岡営業所内	電話(53) 2135

海外オリンパス・サービス・ステーション所在地

U. S. A. OLYMPUS CORP. OF AMERICA 2 Nevada Drive New Hyde Park, N.Y. 11040
GERMANY OLYMPUS OPTICAL CO. (EUROPA) GmbH. Steindamm 105, 2Hamburg 1

あなたのカメラナンバーを控えておきましょう。

No. _____

IJ35UC © 0474 10MS